

永山 英也さん 2017.9.20 曜日

読谷山洋司さん

地場産業と財源強化

「延岡人で良かった」と思え 税日本一を目指す。これにより 地場産業を振興し、財源確保を 実現したい。実現のためは、 国、大学、地方自治体、民間 企業などの人脈をフル活用す る。

財源確保のため、事務事業を ゼロベースから見直し、年度末 予算の使いきりを見直す。ま ぎ、「外貨」をかせぐ。起業に た、旭化成OBなど全国に味方 対しても資金調達のノウハウな がいるのを生かし、ふるさと納 る。

攻めの第1次産業政策を市政 の大きな柱に据える。10%所得 アップし、農山村漁村版ハロー ワークなどでマンパワーを確保 する。国の離島・過疎対策をフル 活用する。市民の現金収入を増 やすため地域新電力会社を設 立、電気代を下げ、売り上げは 地域に還元する。バス停を空き 店舗に設置するなど、新型バス ネットワークを整備し、安い経 費でまちなかで生活できるように する。財政・市民負担の総点検

2018 延岡市長選

来月1月21日告示の延岡市長選の立候補予定者2人が、自身の市 のビジョンや理念を語った「延岡の明日を考える会」(延岡青年会議所 主催)。登壇した元総務省官僚の読谷山洋司さん(53)と、元県総合政 策部長の永山英也さん(60)の主な発言要旨を紹介する。

これまでの政策の成果は十分 に生かし、うまくいっていない ものは大胆に変革する。新たな 分野にも果敢にチャレンジして いく。

延岡の一番大きな課題は、人 口減少。その要因は若者の流出 だ。抑制するには、若者にとっ て魅力的な雇用の場をつくる必 要がある。

若者の雇用創出図る

真に安全で安心な社会を築 いていく。県立延岡病院の強化のた め、培ったネットワークを生か し働きかける。新たな問題に備 えるため医師会、宮崎大、延岡 病院、市が一体となった地域医



よみやま・ようじ 1986(昭和61)年、自治省(現・総務省) 入省。愛媛県総務部長、内閣府 および内閣官房内閣参事官、 岡山市副市長など歴任。2012 年、延岡市に帰省、子育て支援 会社役員など務める。緑ヶ丘出 身。東京大経済学部卒。53歳。

も行い、下げられるものは下げ る。 医師不足解消へまちなかの古 い建物を手直しし、複数の医師 が入居してもらおう構想を持つて いる。ベンチャー企業を育てる ように開業してもらおう代わり に、他の病院の非常勤医師にも

まちづくりができるよう総合支 所に独自財源と権限を持つても らう。新しく、優しく、力強い現 場主義の地域づくりを目指す。



ながやま・ひでなり 1981 (昭和56)年に県庁入庁。総合政 策課長、農政水産部畜産・口蹄 疫復興対策局長、総合政策部 次長、商工観光労働部長など歴 任。2016年4月から総合政策部 長を務め、今年3月末に退職。 岡富町出身。九州大卒。60歳。

療会議を常設する。未来への投 資をしっかりとやる。学校の教 育力を伸ばすため、市の予算、 との連携を強める。 ものづくり産業を支える人材

育成のため延岡工業高に2年間 の専攻科を設置するよう県と県 教委に求めていく。若者の早期 離職を防ぐため企業の枠を超え てネットワークをつくって、とも に学び、励まし合うシステムをつ くる。大人の学びの場もつくる。

地域づくりのため各地域に市 民と職員が語り合う「未来会議」 をつくる。3総合支所にはしつ かりとした財源と権限が必要だ。 前に進むこと、進化すること を恐れない市役所、市政を築 く。みなさんと明るい未来を語 れる延岡市をつくる。